

理解度&釣れる度100%

丸 マルキュー

優良 餌本



パワーエサ グッツ



Contents

- 02 ウドンセットの浅ダナ釣り
- 10 ウドンセットのチョーチン釣り
- 18 段差の底釣り
- 26 両グルテンの宙釣り
- 28 両グルテンの底釣り
- 30 グルテンセットの宙釣り
- 32 グルテンセットの底釣り

2021 冬春号

HERA BAIT POWER BOOK

ウドンセットの 浅ダナ釣り

持たせ系・抜き系のバラケエサはこの7種類があれば大丈夫！



●くわせエサ

くわせエサは「力玉」や「感嘆」を使用します。一番重要なのは、ハリから取れないこと。ハリにくわせエサを付けるときに、しっかりと刺すこと。「力玉」はさなぎ粉漬けにすることでハリ持ちがよくなります。次にアタリがでること。くわせエサの種類によってアタリ数に差がでることもあるので、数種類のくわせエサを使い分けてみましょう。



ウドンセットの浅ダナ釣りは、寒い時期の食い渋り対策で始まった釣り方で、晩秋から春先にかけて、一番アタリがやすい釣り方です。

基本の釣り方は、バラケエサをしつかり付けてウキのトップ先端までナジませ、タナへしつかりエサを届けて釣ります。エサ打ちを続けると徐々にへら鮒が近づいてきて、バラけた粒子を吸うときにくわせエサも吸うので、それがアタリになるのです。

で、へら鮒を遠ざけてしまふこと。いい感じで釣れていたのに急にアタリがなくなった場合などは、これが考えられます。

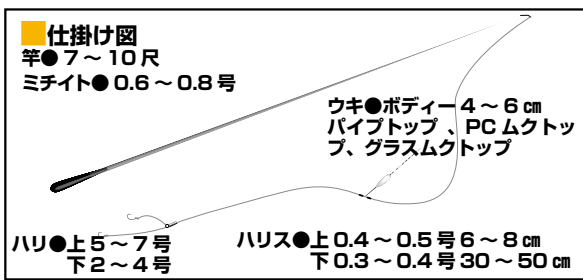
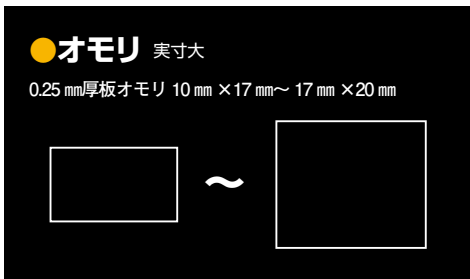
近年の傾向として、バラケエサを持たせて釣る場合でも、チリチリとバラける（ゆつくりとウキが上がってくる）とカラツンが多くなる傾向があります。ハリ切れのよいバラケエサが釣れる傾向になっています。

一方、近年は抜き系の釣りが主流となりつつあります。抜き系とはバラケエサを抜いて釣るのですが、ただバラケエサを抜けば釣れるほど簡単ではありません。

まずは、一旦バラケエサを持たせて、ナジんだところからすぐに抜ける。この動きをだせるようなエサ付けのコント

ロールを覚えましょう。ちよつと持ちすぎた場合は、竿を手前に引いて意図的にバラケエサを抜きましょう。慣れてきたら、ナジミ幅のコントロールをします。3目盛りナジんで抜ける、2目盛りナジんで抜ける、1目盛りナジんで抜ける、バラケエサが持つか持たないかのギリギリ（何となくバラケエサが付いているか

など感じる程度）とコントロールしながら、アタリがでるパターンを見つけるのがポイントです。勘違いしないでほしいのですが、厳寒期の極めて活性が低い食い渋り時でないかぎり、水面直下から抜けるようなエサを打つことはありません。





+



+



+



+



+



ウドンセットの浅ダナ釣り①

持たせ系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」50 cc+

「とろスイミー」50 cc+

「セットガン」100 cc+

水 200 cc+

「セット専用バラケ」100 cc+

「セットアップ」200 cc

●作り方

「粒戦」50 cc、「とろスイミー」50 cc、「セットガン」100 ccに水 200 ccを注いでかき混ぜて15分放置。そこに「セット専用バラケ」100 cc、「セットアップ」200 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

できあがったエサの3分の1ほどを別のボウルに小分けして使う。軽くエア抜きしてまずはそのまま丸めてエサ打ち。狙い通りのナジミ幅がでるかを確認。ナジミ幅が少ないときは、エサ付けの圧を強くしてエサ付けする。

●エサの大きさ

実寸大





+



+



+



+



+



ウドンセットの浅ダナ釣り②

抜き系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」 50 cc+

「粒戦細粒」 50 cc+

「サナギパワー」 100 cc+

水 200 cc+

「セット専用バラケ」 100 cc+

「セットアップ」 200 cc

●作り方

「粒戦」 50 cc、「粒戦細粒」 50 cc、「サナギパワー」 100 ccに水 200 ccを注いでかき混ぜて 15 分放置。そこに「セット専用バラケ」 100 cc、「セットアップ」 200 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

できあがったエサの 3 分の 1 ほどを別のボウルに小分けして使う。まずはそのまま丸めてエサ打ち。抜き系といっても一旦ナジミをだしてすぐ抜けるようにエサ付けをコントロールする。

●エサの大きさ

実寸大



●カラツンが多いとき

カラツンといっても、いくつか種類があります。バラケエサに対するもの、くわせエサに対するもの、単なるイトズレです。まずはカラツンの原因を見極めることです。バラケエサへのカラツンはエサの持ちすぎ。手水でバラケエサを調整してハリ抜けをよくします。くわせエサの場合は、シンプルにハリスを5cmずつ詰めてみます。この場合、完全にカラツンをなくそうとせず、強いアタリがでるところを見つければ、多少のカラはOKと考えます。イトズレが多い場合は、バラケエサのバラけすぎですので、エサを小さくする、手水で攪拌しバラケ性を抑えるなどの調整をします。

●流れがあるとき

冬は風流れが起きやすい季節です。流れに対する対処としては、ウキサイズをあげて仕掛け全体を流れにくくする。バラケエサを持たせる方向にして、できるだけへら鮎を近づけるようにする。流れてしまうバラケエサに合わせるように下ハリスを伸ばすという対応があります。流れの強弱や状況によってどれが有効かを述べるのは難しいので、色々と試してください。

●タッチのキープには「粘麩」が有効！

エサが乾燥しやすい冬場。使うエサを小分けして、基エサを重ねたボウルの下へ置いて乾燥を防いでも、触ってみたら思った以上のボンになっていることが多い。つまり、これではタッチが変わってしまう。手水を打つのも開き具合の調整ではなく、エサのタッチを維持するため。このとき、『粘麩』をひとつまみ絡めることで、保湿効果を得られる。手荒れ防止のハンドクリームのような効果があるのだ。

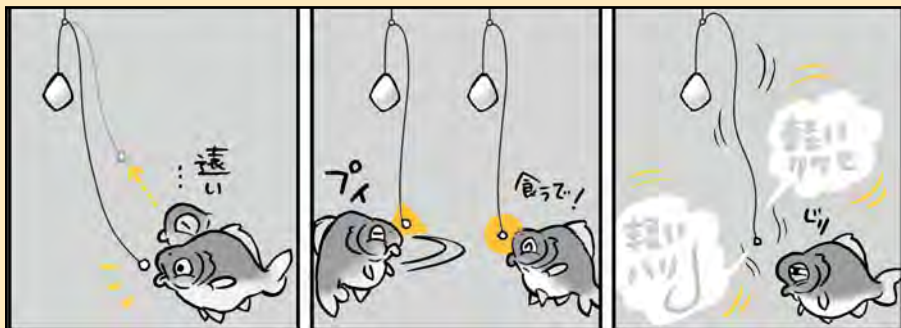


ウドンセットの 浅ダナ釣り

こんなときどうする？

● サワリがないとき

サワリがないということは、つまり魚が近くにいないということが考えられます。まずは下ハリスを長くして魚がいるかどうかを確認めます。それでもサワリがでないときはくわせエサを変えることで、反応するかどうかを確認します。それでも反応がでなければ、一番軽くくわせエサを使いハリを小さくしてみます。



● 決めアタリがでないとき

サワリがあるのにアタリがでないのは何かしらの理由でへら鮒がくわせエサを吸えない、吸わないということ。まず一番手っ取り早いのがくわせエサの変更です。くわせエサを変えることでアタリがでることはよくありますので、まずはこれを試してみてください。もうひとつ考えられるのは、下バリ（くわせエサ）の落下スピードが合っていないこと。軽くくわせエサにする、ハリを小さく（軽く）する、ハリスを長くするの順で試していきましょう。ハリスを長くした場合、今度はフワフワするだけでアタらないパターンもあります。こういうときは、ハリを重くしてみましょう。

ウドンセットの チョーチン釣り

持たせ系・抜き系のバラケエサはこの8種類があれば大丈夫！



●くわせエサ

くわせエサは「力玉」や「力玉大粒」、「感嘆」を使用します。くわせエサがぶら下がった（ハリスが張った）とき、つまりタナでしっかりアタるなら重め、落下中（ハリスが張ってない）にアタるなら軽めというのが基本的な使い分けです。



ウドンセットのチョー
 チン釣りは、冬の季節風
 にも強く、また、穂先の
 先にウキが位置するの
 で、ウキの動きが見極
 めやすく、また、縦サソ
 イなどのロッド操作がし
 やすいので、ビギナーや
 セット釣りが苦手という
 人でも、チャレンジでき
 る釣り方です。

まずは持たせ系のバラ
 ケブレンドから始めま
 す。ウキのトップ先端ま
 でしっかりとナジませ、し
 ばらくしてウキが上がっ
 てくるぐらいのエサ付け
 で始めます。これを繰り返
 しながら、サワリがで
 てアタリもでるようなら
 このまま釣りましょう。
 しかし、渋くなるこの
 のままでは釣れません。
 そこで、ウキをナジませ
 たところから、サオ先を
 持ち上げるようにしゃく

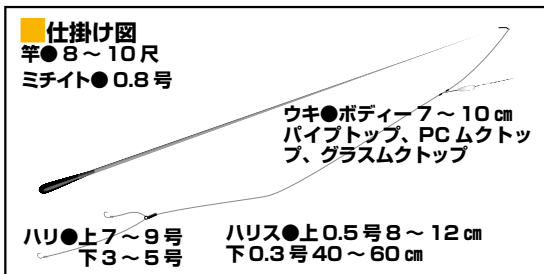
りを入れます。このしゃ
 くりでバラケが促進され
 るのでへら鮒を寄せるこ
 とになります。

しゃくってナジんで
 またしゃくる。この繰
 り返しのなかで、アタリ
 がでるタイミングを探り
 ます。たとえば3回ししゃ
 くってアタったとしま
 す。これがパターンなら、
 必ず3回はしゃくり、そ
 れで当たらなければエサ
 切りと割り切って釣りの
 リズムを作っていくま
 す。このパターンでは、
 エサをある程度抱えつつ
 も、ナジミ込みでのアタ
 リもでやすいPCムク
 トップがオススメです。
 さらに渋くなる、ア
 タリがでるまでのしゃく
 る回数が多くなります。
 これは、バラケエサが少
 ない、あるいは抜けてか
 らしかアタリがでないの

で、抜き系の釣りにシフ
 トします。

抜き系の釣りとはいっ
 てもチョーチン釣りの場
 合は、水深がありますの
 で、少しバラケエサを持
 たせる（1〜2目盛りナ
 ジむ）ところからはじめ、
 徐々に持たせ具合を調整
 します。

くわせエサがナジむま
 でにアタリができれば理想
 ですが、アタリがでな
 い場合は、縦サソイを入
 れてくわせエサの落下を



再演出します。このとき
 も2回目のサソイでアタ
 るなどパターンが見えて
 くれば、それに合わせて
 釣りのリズムを作ってい
 きましょう。この抜き系
 の釣りの場合は、くわせ
 エサの落下中のアタリを
 捉えるため、グラスムク
 トップのウキが必要にな
 ります。



+



+



+



+



+



ウドンセットのチョーチン釣り①

持たせ系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」50 cc+

「とろスイミー」50 cc+

水 150 cc+

「セットアップ」200 cc+

「段底」100 cc+

「BB フラッシュ」100 cc

●作り方

「粒戦」50 cc、「とろスイミー」50 ccを軽く混ぜ合わせたところに水 150 ccを注いでかき混ぜて5分以上放置。そこに「セットアップ」200 cc、「段底」100 cc、「BB フラッシュ」100 ccを入れてよくかき混ぜる。ムラなく混ざったところでさらに5分ほど置いてから使い始める。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。自分がイメージするナジミ幅(トップ先端1~2目盛り残し)ができるように、エア―抜きや圧調整、エサを練るのではなく、かき混ぜるだけで自然な粘りをだす調整をする。

●エサの大きさ

実寸大





+



+



+



+



+



ウドンセットのチョーチン釣り②

抜き系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「粒戦細粒」50 cc+

水 150 cc+

「セットアップ」200 cc+

「バラケマッハ」100 cc+

「セット専用バラケ」100 cc

●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスイミー」50 ccを軽く混ぜ合わせたところに水150 ccを注いでかき混ぜて5分以上放置。そこに「セットアップ」200 cc、「バラケマッハ」100 cc、「セット専用バラケ」100 ccを入れてよくかき混ぜる。ムラなく混ざったところでさらに5分ほど置いてから使い始める。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボールに小分けして使う。抜き系といっても1～2目盛り程度ナジむエサ付けの圧を打ち始めて確認しておく。まずはタナ近くまではエサを持たせるイメージからスタートする。

●エサの大きさ

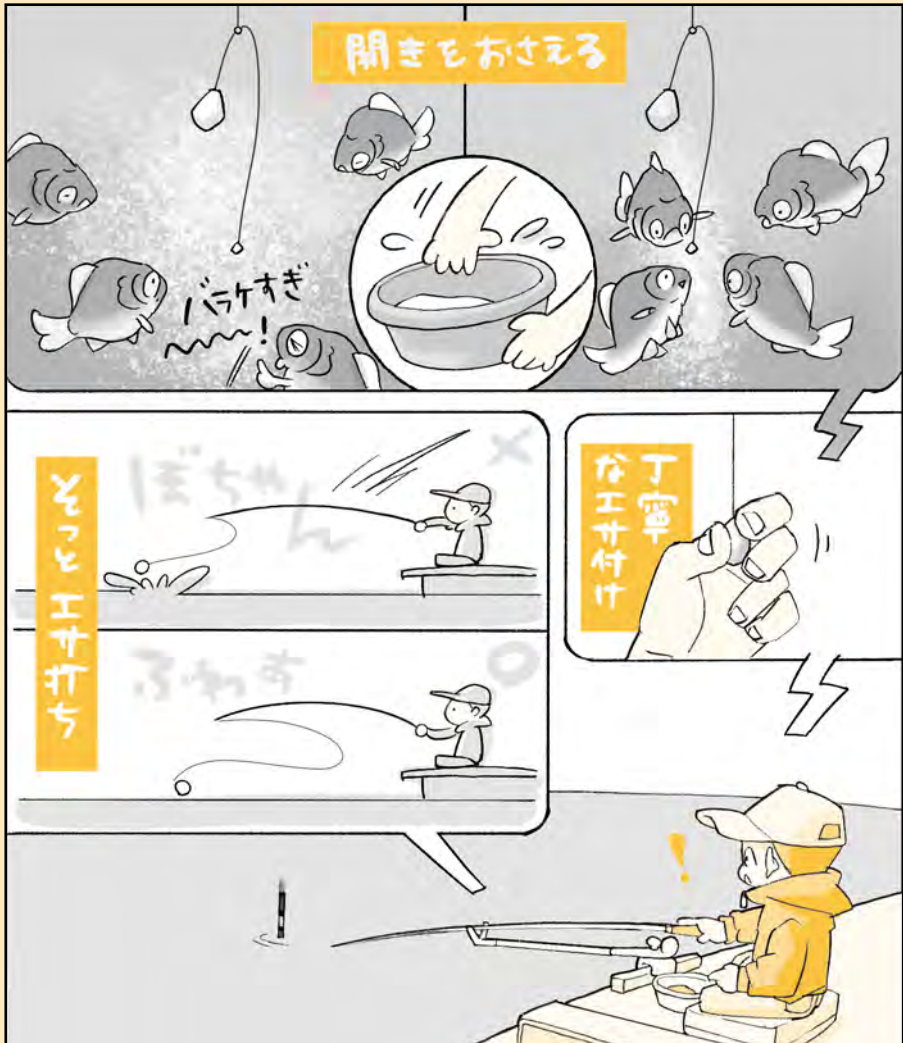
実寸大



● 決めアタリがでないとき

(持たせ系) バラケエサの開きすぎが原因と考えられます。この場合、小分けにしたエサに手水を打って、数回かき混ぜややしっとりネバタッチにすることで、タナに魚が落ちつきくわせエサに反応することがあります。

(抜き系) 持たせパターン同様の対処になりますが、エサの素材が比較的開きやすい物なので、エサ付けを丁寧にする、エサ打ちの際、エサの着水をそっとするなど効果的です。



こんなときどうする？

● サワリがないとき

(持たせ系) 使用しているエサに手水を打ち、ややしっとりタッチにして、「バラケ方の変化で反応するか」を試してください。ここで、一番注意することは、サワリがないからと、バラケエサのサイズを大きくすることで、ウズリや遠巻きを招くことになります。

(抜き系) エサの開きすぎが原因の場合があります。この場合、小分けにしたエサを練らずに20回位かき混ぜ、麩材のネバリをだします。タッチをややしっとりにして、やや開きを抑えたバラケエサにします。

● カラツンが多いとき

(持たせ系) バラケエサの持ちすぎが原因の場合があります。このようなときには、小分けして使用しているエサに基エサを合体させてエサの開きを良くします。次に、下ハリスの長さも調整してください。基本的には3cmずつ短くしていきます。

(抜き系) 魚が落ち着かないで「イトズレ」によるスレやカラツンが要因の場合があります。このような場合は、魚を落ち着かせるために、エサ付けを丁寧（エサの表面をコーティングするよう）にしてください。

● 流れがあるとき

(持たせ系・抜き系) 基本的には流れの上流部、風上にエサを打ち込むようにします。そして、ナジんだ位置がちょうど自分の正面になるようにします。また、仕掛けを繊細にして、水流抵抗を少なくする方法もあります。

段差の底釣り

持たせ系・塊抜きのパラケエサはこの6種類があれば大丈夫！



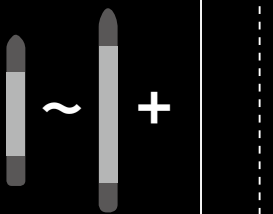
くわせエサ

くわせエサは確実に底に付けることが大前提なので、底から離れにくい重さのある「魚信」を使うのが基本です。また、はっきりとくわせエサと認識（アピール）させるため、白い「魚信」は有効で、大きめに付けるといい場合もあります。ただ食いが渋いときや、底の状態によっては軽いほうがアタリがでるときもあるので、「感嘆」や「力玉大粒」なども用意しておきましょう。



●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシ
ンカー」0.8g + 0.25 mm 厚
板オモリ 8 mm × 30 mm ~
「絡み止めスイッチシ
ンカー」1.2g + 0.25 mm 厚
板オモリ 10 mm × 30 mm



へら鮒の活性が落ちる
 厳寒期に有効的な釣り方
 のひとつが段差の底釣り
 です。基本的には数多く
 釣る釣り方というより
 は、深い状況下でポツポ
 ツと確実に釣るイメー
 ジの釣り方になります。

段差の底釣りで一番重
 要なことは、まず底にへ
 ら鮒を寄せることです。
 そのためにはバラケエサ
 をしっかりとナジませて、
 底にへら鮒を集魚するこ
 とです。バラケエサのナ
 ジミ幅をださない、いわ
 ゆるゼロナジミでは底に
 集魚することができません。
 ゆえに、バラケエサ
 を必ずナジませて釣りを
 組み立てることが基本と
 なるのです。

ウキの動きで言えば、
 まずはトップ先端付近ま
 で必ずナジませるように
 エサ付けをし、そこから

ゆっくりウキが上がっ
 て、バラケエサが抜けて
 からのアタリを狙ってい
 くのがセオリーですが、
 その日の状況によって、
 バラケエサがジワジワと
 抜けてウキがゆっくり上
 がった方がいいのか、バ
 ラケエサがスツと抜けて
 ウキが早めに上がった方
 がいいのを探ります。

またアタリはバラケ
 エサが抜けてからの方
 がヒット率が格段に高い
 です。もしそのアタリで
 ヒット率が悪く、スレや
 カラツンが多い場合は、
 タナが合っていない証拠。
 くわせエサが確実に底に
 着いていない可能性が高
 いのでタナを測り直しま
 しょう。

バケラエサは、作った
 ままの状態で打ち始めま
 す。この作ったままの状
 態のエサは、一番バラけ

る状態になっています。
 バラケエサへの反応が強
 い場合や強い食いアタリ
 がでにくい場合は、バラ
 ケエサに手水を打ち、エ
 サ自体の横へのバラケ性
 を抑えると強いアタリが
 できるようになります。こ
 のとき、手水を打つとバ
 ラケエサがやわらかくな
 り、エサ持ちが悪くなる
 ことが考えられます。こ
 こでウキのナジミ幅を甘
 くしてしまうと、知らず
 にウワズリを招いてアタ
 リがなくなってしまうの
 で注意が必要です。

状況によっては有効に
 なるバラケエサを早めに
 抜く、塊抜きパターンに
 の注意点ですが、この場
 合、ウキは必ずナジミ幅
 をだしてから抜くことが
 非常に大切です。ウキに
 バラケエサのナジミ幅を
 ださないゼロナジミにし

てしまうと、底に集魚で
 きないのでアタリが激減
 してしまいます。ねらい
 のポイントにエサを塊で
 置いてくるイメー
 ジの釣り方ですので、一度は必
 ずウキをナジませるよう
 にしましょう。

仕掛け図
 竿●8~18尺
 ミチイト●0.6~0.8号

ウキ●ボディー 10~17cm
 細パイプトップ、PCムクトップ、
 グラスムクトップ

ハリス●
 上0.5号 10~15cm
 下0.3~0.4号 45~60cm

ハリ●上6~7号、下2~4号



+



+



+



+



段差の底釣り①

持たせ系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」50 cc+

「とろスイミー」50 cc+

水 200 cc+

「段底」400 cc+

「セットアップ」200 cc

●作り方

「粒戦」50 cc、「とろスイミー」50 ccを軽く混ぜ合わせたところに水 200 ccを注いでかき混ぜて10分放置。そこに「段底」400 cc、「セットアップ」200 ccを入れてよくかき混ぜる。下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。5分ほど置いてから使い始める。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。まずはそのままエサ付けしてトップ先端までナジミがでるようにエサ付けの指圧をコントロールする。さらにウキがゆっくり上がってくるようなエサ付けを意識する。

●エサの大きさ

実寸大





+



+



+



+



段差の底釣り②

塊抜き系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」 100 cc+

「粒戦細粒」 50 cc+

水 200 cc+

「段底」 400 cc+

「GD」 50 cc

●作り方

「粒戦」100 cc、「粒戦細粒」50 ccを軽く混ぜ合わせたところに水200 ccを注いでかき混ぜて10分放置。そこに「段底」400 cc、「GD」50 ccを入れてよくかき混ぜる。下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。5分ほど置いてから使い始める。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。塊抜きなので、しっかりナジミ幅をだしてそこから一気にバラケエサが抜けるようにする。上手く抜けない場合は手水と攪拌でエサ持ちと抜け具合を調整する。

●エサの大きさ

実寸大



●カラツンが多いとき

段差の底釣りは基本的にヒット率が高く、カラツンが少ない釣り方です。それでもカラツンが多いときはまずはタナが合っていないことが考えられますので底を測り直します。またくわせエサのはわせ幅も重要になりますので底でくわせエサが安定するにはわせること（ウキ下を深くする）も必要です。またバラケエサに関しては開きすぎていることも考えられるので、エサ付けをひと回り小さくするか、手水を打ちバラケエサの開きを抑えましょう。

●流れがあるとき

季節風などで流れがあるときは、まずはチョーチンになるような竿の選択が一番です。ロッドでコントロールしやすくなります。竿先でウキを引っ張ってしまうと食いアタリがでにくいので竿先のテンションがウキにかからないようにフリーしておきましょう。またウキが流される範囲を決めてその位置まで流されたら打ち返すか、竿を持ち上げてエサの置き直しをしたほうがいいでしょう。このエサの置き直しで、バラケエサが溜まっている場所へくわせエサを戻せるので、有効な手段のひとつです。



こんなときどうする？

●サワリがないとき

サワリがないときは、まずバラケエサが開きすぎていることが考えられますので、エサ付けを丁寧にするもしくはバラケエサをひと回り小さくエサ付けしてください。それでも改善しない場合には、エサに手水を打って横へのバラケ性を抑えると遠巻きだったへら鮒が近づくので、サワリができるようになります。サワリがないからといって無闇に大きなバラケエサを打つのは逆効果。へら鮒を遠ざけたり、ウズらせるだけで、ねらいの底に呼び込めないの、ウキは静かなままになってしまいます。

●決めアタリがでないとき

まずウキにサワリがあるということは、魚はある程度底付近に寄っているということになります。ただ、くわせエサ付近に集魚できていないのでバラケエサの開きすぎが考えられます。そのようなときはバラケエサをひと回り小さくエサ付けするか、もしくは手水を打ちバラケ性を抑えてより集魚することを意識すれば食いアタリがでます。

もうひとつ考えられる原因はくわせエサが底に着いていない可能性です。その場合は面倒臭がらずにタナを測り直してしっかりくわせエサが着底するようにしましょう。また、たまたま底の状態が悪い所にくわせエサが落ちた、何かの障害物に引っかかった場合などもアタリがでにくくなります。このときに有効なのが、くわせエサの置き直しです。サオ先を持ち上げるようにして仕掛け全体を30cmほど上げてから落とします。これでアタリができることは多いので、積極的に使いたいテクニックです。

●作り方

「グルテン四季」100 cc、「わたグル」50 cc、「新べらグルテン」50 ccをグルテンボウルに入れ、軽く混ぜ合わせたところに水200 ccを注ぐ。よくかき混ぜて固まり始めたらボウルの端に寄せる。完全に固まったらハリ外しなどでほぐしてエアーを絡ませる。



マッシュの大きい「新べらグルテン」は、口径の小さい50 ccカップだとバラつきやすいので、100 ccカップを使用する。このとき、先に「わたグル」を50 cc入れた状態で「新べらグルテン」の袋にカップを入れてすくう。こうすることで、「わたグル」と「新べらグルテン」の合計が100 ccとなるので安定して作れる。



エサが固まったらハリ外しなどでほぐしてエアーを絡ませる。

●使い方

掻きほぐしたエサをひとつかみほど取り分け、軽くエアーを抜いて使う。できるだけエサはいじらずに使うが、エサが持たないときは2～3回エアー抜きを行なう。

両グルテンの宙釣り

●エサブレンド

「グルテン四季」100 cc＋
「わたグル」50 cc＋
「新べらグルテン」50 cc＋
水 200 cc



＋



＋



＋



●エサの大きさ

実寸大



●エサブランド②

「1:1 粉末マッシュ」50 cc +
「へらグルテン LL」50 cc +
水 100 cc

オールマイティに使える！



+



+



●使い方

完全に表面が固まった時点でできあがったグルテンの半分だけ小分けにしてひっくり返す。そのままにしておいたグルテンはボソッと仕上がりに、反対にひっくり返したグルテンは水が浸透しているため、しっとりタッチになる。その日の状況に合わせて使い分けるが、比較的新べらには「ボソタッチ」、居着きのへらには「しっとりタッチ」が適している。

●エサの大きさ

実寸大



両グルテンの底釣り

●エサブレンド①

「わたグル」50 cc+
「グルテン四季」50 cc+
水 110 cc

新べら狙いに有効！



+



+



●作り方

どちらのブレンドも正確にグルテンを量り、水を注いでからは丁寧にかき混ぜる。グルテンという特性上、あまりかき混ぜてはよくないと思うかもしれませんが、ここでしっかりまぜないとグルテンが分離して仕上がりにムラがでるので注意したい。固まりだしたらボウルの端に寄せて完全吸水するまで放置。時間的には5～6分、水温低下時などは7～8分放置することもある。

●くわせエサ

「グルテン α21」50 cc + 水 60 cc



●エサの大きさ

実寸大



●くわせエサの作り方

「グルテン α21」50 ccをグルテンボウルに入れ、そこに水60 ccを注ぐ。30回ほど丁寧にかき混ぜたら、吸水して固まるまで放置。しっかりとかき混ぜることでムラのない仕上がりになる。



くわせ用のグルテンは軽量カップで作ることも可能。200 ccカップに「グルテン α21」50 ccを入れて水60 ccを注ぎ、カップのフタをしてよくシェイクする。しばらく放置して固まればできあがり。このシェイク作りは手がかき混ぜるよりもグルテンと水が混ざるのでよりムラのない仕上がりになる。

●バラケエサの使い方

バラケエサはややボソツとしたタッチに仕上がる。これを小分けにして手水を打ちながら「ネバリ調整」と「エアーを抜き」をしながらナジミ幅の調整をする。バラケエサだけで3～4目盛りナジミが目安。

グルテンセットの宙釣り

●バラケブレンド

「バラケマツハ」400 cc＋
「段差バラケ」400 cc＋
「セット専用バラケ」200 cc＋
水 200 cc



+



+



+



●エサの大きさ

実寸大



●くわせエサ

「グルテン α21」25 cc +
「いもグルテン」25 cc +
水 50 cc



+



+



●エサの大きさ

実寸大



●くわせエサの作り方 & 使い方

「グルテン α21」25 ccと「いもグルテン」25 ccをグルテンボウルに入れ、そこに水 50 ccを注ぐ。固まり始めるまでよくかき混ぜ、ボウルの端に寄せ、完全に固まるまで放置。固まったら3分の1程度を指で取り分け、それをひっくり返して使う。

エサをやわらかくするとき、指を水で濡らして使っているエサに付ける。この対応で充分効果がある。



グルテンセットの底釣り

●バラケブランド

「ペレ底」50 cc+

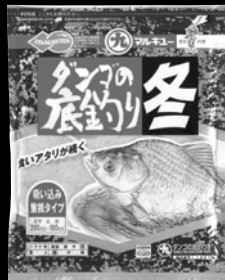
「ダンゴの底釣り冬」50 cc+

「バラケマツハ」50 cc+

水 75 cc



+



+



+



●エサの大きさ

実寸大



グルテンセットの宙釣り

● サワリがないとき

狙っているタナに魚の量が少ないのでサワリができません。そこで、今まで以上にバラケエサをタナに届けるようにします。バラケエサに手水を打ち、落下途中のバラケ性を抑えます。ナジミ幅で1目盛りでも良いので深く入れるようにして、タナに魚を寄せるようにします。

● 決めアタリがでないとき

セット釣りでは、くわせエサが確実に付いていることが前提になります。グルテンエサに手水を打って、押し練りを加えてエサ持ちを良くしてください。次に、ハリス段差が合っていないことがあります。決めアタリがでないということは基本的に下ハリスを「長くする」方向で調整してください。

● カラツンが多いとき

セット釣りは2つの異なるエサが付いているので、どちらのエサにカラツンがでているのかを見極めることが難しくなります。基本的にはエサの持ちすぎが大きな要因なので、バラケエサのナジミ幅を「少なく」する。くわせエサのグルテンを「やわらかくする」「小さくする」などの対処法があります。

● 流れがあるとき

タナまで早くエサを入れるために、ワンランク大きいウキにスイッチしましょう。

グルテンセットの底釣り

● サワリがないとき

まずはエサ付けをラフ付けにして魚の反応を引きだすようにします。角張らせてエサ付けするとエサが開くようになりサワリがでるようになります。それでもサワリがでないときは、バラケエサに手水を打ちやわらかくして開かせるようにします。ただし、無闇にバラケエサを開かせたりするとウワズらせてしまうので底に置いてくるようなバラケエサが必要です。

● 決めアタリがでないとき

まずはタナが合っていないことが考えられるので底の測り直しをします。また決めアタリがでないということはエサ付けが大きすぎることも考えられますので、エサをひと回り小さくして魚が食べやすい大きさにします。

● カラツンが多いとき

カラツンが多いときは、タナが合ってなくエサが底で安定していない場合が考えられるのでウキ下を深くしてはわせ幅を多くとります。またエサがかたい可能性もあるのでエサのタッチをやわらかくしたり、大きすぎる可能性もあるのでひと回り小さくエサ付けをして魚が食べやすい大きさにしましょう。

● 流れがあるとき

たとえば、左→右に流れている場合は、やや左にエサ打ちをしてウキがナジむときには自分の正面になるようにエサ打ちします。また、ウキの流される範囲を決め（たとえば自分の正面から右に1mぐらいとか）、その位置まで流されたら打ち返すようにします。あまり待ちすぎは良くないでしょう。

こんなときどうする？

両グルテンの宙釣り

● サワリがないとき

まずは魚のいるタナを探ります。12月をすぎると深くなる傾向にありますので、水深の半分より深いタナを狙います。それから、ハリスの長さを調整します。基準は45cmと60cm。これを5cmずつ伸ばします。また、段差を20cmに広げるのも効果的です。

● 決めアタリがでないとき

これもまずはアタリがでるタナを探ります。ウキがスッと入ってナジんだ後、しばらくしてからサワるなら深く、ウキの肩でポコポコと受けるようなら浅くします。

● カラツンが多いとき

エサが持っていない場合が多いので、エサをしっかりと付ける、大きく付けることを試みましょう。

● 流れがあるとき

大きめのウキで重り負荷を増やします。

両グルテンの底釣り

● サワリがないとき

エサのしまり過ぎが原因のときがあります。そのようなときは「しっとりタッチ」のグルテンに、さらに手水を指先から数滴たらしやわらかくします。そして、指先でグルテンを数回揉み「やわらかいが持つグルテン」に変えます。やわらかく、しっとりとして膨らむようなエサに反応します。

● 決めアタリがでないとき

グルテンエサの場合、一番注意するのが「エサ持ち」です。サワリがでているのに決めアタリがでないときは「エサを数回揉む」ことで、ハリ抜けを防ぐことができます。また、反対にエサがかたすぎ、サイズが大きいと食い込めない場合があります。決めアタリがでません。かたいグルテンエサの場合は「小さく」ハリ付けしてください。

● カラツンが多いとき

まずタナが合っていない可能性がありますので、タナを測り直します。タナが合っている場合は、エサの持ちすぎが大きな要因です。グルテンを「やわらかくする」「小さくする」などの対処を試してみましょう。

● 流れがあるとき

タナまで早くエサを入れるために、ワンランク大きいウキにスイッチします。また、底釣りなので地形変化を利用する手もあります。流される側が浅ければ、そこでエサが止まります。こういう場合もありますので、地底の凸凹をしっかり把握しておきましょう。

さあ、出番だ。

各釣り場から続々と届く新べらの放流情報。

放たれたばかりの元気で無垢なターゲットを

両グルテンの宙釣りで狙うなら、

エサは「新べらグルテン」で決まり。

マッシュのフレークが大きめでバラケ性が高いため、

しっかりと寄せながら釣ることが可能。

また、抜けがいいので、テンポよく打ち返しができるほか、

練り込むことである程度重さとエサ持ちが高められるので、

ちよつとした状況の変化にも即座に対応できます。



●新べらグルテン 400g(チャック袋)